香	 川高等専	 門学校	開講年度 令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	 表現コミュニケーション I		
科目基礎				_021+1&)				
科目番号	LIDTK	211029		科目区分	一般 / 必修	X		
,		授業		単位の種別と単位				
		機械電子	工学科(2019年度以降入学者)	対象学年	1			
開設期通年		通年		週時間数	2			
·		前期:『	基礎からの国語表現の実践 2訂版』	(京都書房、2018)	、プリント教材	後期:プリント教材		
担当教員		田口淳,	與田 純,門脇 大,野口 尚志					
到達目標	-							
人文系科目 む, 書く,	引(国語,社 聞く,話す	±会)の各教 f)の全体的	科の特徴を生かしながら,歴史や異文 な向上と豊かな表現力の育成を図る。	化に対する教養の流	函養と、コミュニク	ケーションに必要な4つのスキル(読		
ルーブリ								
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	聞く力		論理立てた日本語の文章を聞き , その内容を把握できる。	日本語のまとまった文章を聞き , その内容を把握できる。		日本語のまとまった文章を聞いても, その内容を把握できない。		
評価項目2	読む力		収集できる。 できる。		が切な情報を収集 	教員から提供された印刷物やイン ターネットから適切な情報を収集 できない。		
評価項目3 書く力			自分の考えを論理立てて日本語で 書くことができる。 教員の補助が を論理立てて できる。		1ば, 自分の考え 5語で書くことが	自分の考えを論理立てて日本語で 書くことができない。		
評価項目4					ンて, 日本語で簡 る。	調べたことに対して, 日本語で簡 単に説明ができない。		
		目との関	係					
	到達度目標 - 225	票 D-(2)						
教育方法	寺	しかがい		 	7 ト 粉処明記事がっ	シロンプき級もや女きがよめた		
概要		人又糸科 上を図る	目(国語, 社会)の各教科の特徴を生 とともに, 全体での発表を通して表現	かしなから,テキ <i>。</i> 力の向上を図る。	くトで新闻記事寺で	と用いく読解力や文卓作成能力の问		
授業の進め	方・方法	社会科 要領よく	して文章読解・文章作成の能力を養う -現代の社会問題に関する新聞記事等を 簡潔に表現する力を養う。 について、前期は試験50%・提出物50	を考に, 簡潔で分	かりやすい文章表	現力を学ぶとともに,自分の考えを		
	洲。屋檐	- 評価割点 と上の区分		U%C9る。				
	イブラーニ		□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
	100 =		101 13/13	L ZERIIJZX/1/10		- Nimeroco Giverico Give		
授業計画	<u> </u>							
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス		・一つの内容を一つの文に対応させて書くことがる。・述べる順序を考え、あいまいな表現やまわりく表現をせずに書くことができる。			
	1stQ	2週	・文を短くする・的確に伝えるために					
		3週	・文体について意識する・文の役割を知る		・話し言葉と書き言葉を区別し、俗語を用いずに文章 を書くことができる。 ・事実と意見を区別し、文の役割をとらえて書くこと			
		4週	・文の役割を知る ・要約のコツ		ができる。 ・事実と意見を区別し、文の役割をとらえて書くことができる。 ・長文の要点を指摘し、短文に書き改めることができ			
		5週	要約の実践		る。 長文の要点を指摘し、短文に書き改めることができる			
前期		6週	グループワーク			諸の考えを理解しながら自身の考えを深めて、意見はべることができる。		
		7週	文章作成		正述べることができる。 日本語表現に関する基礎知識を習得し, 実用的な文章 を作成できる。			
		8週	前期中間試験					
	2ndQ	9週	試験返却 ガイダンス		文章と段落の役割の関係を理解する。			
		10週	ガ1ランへ 接続詞を使い分ける		接続詞の役割を理解し、文中に用いることができる。			
		11週	段落に分けて書く		段落構成の仕方を理解し、段落ごとに内容を分けて書			
		12週	文章作成の実際(1) ①主題を決める		くことができる。 自分の書きたいことを箇条書きにし,それを整理して 文章の主題を決めることができる。			
		13週	文章作成の実際(2) ②材料をそろえる ③構想表を作る		・主題を説明するための材料を書き出すことができる。 ・集めた材料を適切な順番に並べて構想表をつくることができる。			
		14週	文章作成の実際 (3) ④構想表をもとに文章を書く		構想表をもとにして文章を書くことができる。			

		15週		 文章の改良		書き上げた文章についてグル	レープで意見を	交換し,改	
		16週		×早の成長 前期末試験		良することができる。			
		1週	3	BrdQガイダンス ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見 を論理的な文章で書くことができる。			
		2週		ニュース読み解き			要点をまとめ、自分の意見		
	3rdQ	3週		ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見 を論理的な文章で書くことができる。			
		4週		ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要点をまとめ、自分の意見 を論理的な文章で書くことができる。			
		5週		ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要	要点をまとめ、	自分の意見	
		6週		ニュース読み解き		を論理的な文章で書くことが	見点をまとめ、	自分の意見	
		7週		 ニュース読み解き		を論理的な文章で書くことだ ニュース映像や新聞記事の要を論理的な文章で書くことだ	 見占をまとめ.	自分の意見	
		8週		ニュース読み解き		ニュース映像や新聞記事の要	見点をまとめ、	自分の意見	
				4 th O # / # > 7		を論理的な文章で書くことた グループワークを通して、他		確に聴き取	
後期		9週	2	4thQ ガイダンス ブループワーク1		ることができる。 自分の考えを相手に簡潔に分かりやすく伝え できる。 グループワークを通して,他者の考えを正確 ることができる。 自分の考えを相手に簡潔に分かりやすく伝え	えることが		
		10週	اِ	ブループワーク2		ることができる。			
	4thQ	11週	2	ブループワーク3		グループワークを通して,他者の考えを正確に聴きることができる。 自分の考えを相手に簡潔に分かりやすく伝えることできる。			
		12週	2	ブループワーク4	グループワークを通して,他者の ることができる。 自分の考えを相手に簡潔に分かり できる。				
		文章作成 1		自分の考えを論理的に表現することができる。					
		14週		文章作成 2		自分の考えを論理的に表現す			
		15週 16週			自分の考えを論理的に表現す 自分の考えを論理的に表現す				
モデルコ	アカリキ			学習内容と到達			, 955% CC	٥,	
分類	_	5.)野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
					論理的な文章(論説や評論)の構成や原きる。	展開を的確にとらえ、要約で	3		
					論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3		
					文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3		
					常用漢字の音訓を正しく使える。主力		3		
					類義語・対義語を思考や表現に活用で		3		
					社会生活で使われている故事成語・ きる。	順用句の息味や内容を説明 C	3		
					専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。		3		
		Œ	国語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相号 を用いて作成できる。	手や目的に応じた体裁や語句	3		
					報告・論文の目的に応じて、印刷物、 情報を収集できる。	、インターネットから適切な	3		
基礎的能力	基礎的能力 人文・社会 科学				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		3		
					報告・論文を、整理した情報を基にしように論理の構成や展開を工夫し、		3		
					作成した報告・論文の内容および自然の発表することができる。		3		
					課題に応じ、根拠に基づいて議論で	 きる。	3		
					相手の立場や考えを尊重しつつ、議 や考えをまとめることができる。	論を通して集団としての思い	3		
					新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。		3		
				地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解を について考察である。 民族、宗教、生活文化の多様性を理解を について考察である。	解し、異なる文化・社会が共 きる。	3		
		社会		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切が 用して探究し、その成果を論述したで を通して、世界の人々が協調し共存で について人文・社会科学の観点から	り討論したりするなどの活動 できる持続可能な社会の実現	12	後9,後 10,後11,後 12,後13,後 14,後15,後 16	
評価割合	<u> </u>								
1			試験		小テスト・発表 提	出物 名	計		

総合評価割合	25	0	75	100
基礎的能力	25	0	75	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0